

東京藝術大学 奏楽堂 モーニング・コンサート Morning Concert

第 8 回

2026年 7 月23日(木)

指揮：山下一史

藝大フィルハーモニア管弦楽団

鷺山幸希（作曲）

鷺山幸希：エカ―

青山 暖（ヴァイオリン）

ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61

19：15開演 東京藝術大学音楽学部第6ホール

主催：東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター

◆鷺山幸希（4年：作曲）WASHIYAMA Koki

鷺山幸希：エカー（演奏時間約10分）

福井県出身。現在東京藝術大学音楽学部作曲科4年次に在学中。

ハートピア春江開館30周年記念事業「第九」において、交響詩「さかいからせかいへ」が大阪交響楽団の演奏で初演される。学内にて安宅賞を受賞。これまでにセントラル愛知交響楽団とソリストとして共演。

これまでに作曲を名田綾子、小鍛冶邦隆、折笠敏之の各氏に師事。ピアノを西村翔太郎、都筑小百合の各氏に師事。



本作品のタイトル《Écart》は、フランス語で「間隔」「隔たり」「差異」「ずれ」「逸脱」などを意味する語であり、本作の構造および音楽的思考を象徴している。

楽曲は大きく前半と後半の二つの部分から成る。前半では、同一の音響素材および動機を起点として、それらの派生系が各セクションを形成していく。共通の起源を持ちながらも、音色、リズム、配置の変化によって微細な差異が生じ、それが音楽的展開の軸となる。

後半では、前半に提示された音響や動機を素材として、さらに大きなずれや歪みが加えられる。異なる時間軸で形成された要素同士を衝突させるほか、元の素材から意図的に逸脱した音型を導入することで、複層的な差異と緊張関係が生み出される。こうした操作により、音楽は連続性を保ちつつも、不安定さや変容を内包しながら進行していく。しかしながら、これらのずれや対立は単なる分断に終わるのではなく、相互に作用しあうことで新たな音色や響きとして融合し、結果として統一感のある音楽全体を形成している。

本日はモーニング・コンサートにお越しくださり、ありがとうございます。このような舞台で作品を皆様にお聴きいただけることをたいへん嬉しく思います。指揮の山下一史先生、藝大フィルハーモニア管弦楽団の皆様、熱心にご指導くださる先生方、この演奏会のためにご尽力いただいたスタッフの皆様、本日足をお運びくださった皆様に心より感謝申し上げます。

（鷺山 記）

◆青山 暖（4年：ヴァイオリン）AOYAMA Non ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61（演奏時間約45分）

2004年生まれ。岡山県出身。3歳よりピアノ、4歳よりヴァイオリンを始める。東京藝大ジュニア・アカデミー、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、現在 東京藝術大学音楽学部にて宗次徳二特待奨学生として4年在学中。学内にて福島賞、安宅賞、宮田亮平賞を受賞。2023年度福島育英会奨学生。2025年度青山音楽財団奨学生。国内外で研鑽を積む。

第24回 岡山芸術文化賞 グランプリ受賞。G7 倉敷労働雇用大臣会合にて演奏。マルセン財団文化賞受賞。第90回日本音楽コンクール入選、第91回日本音楽コンクール第2位。第70回全日本学生音楽コンクール大阪大会第1位、全国大会第1位、東儀賞 兎束賞他受賞。第17回クロスターシェンタール国際コンクール（ドイツ）第2位・ヴィルトーゾ賞受賞。メニューイン国際コンクール2018 in ジュネーブ（スイス）セミファイナリスト。第1回ジェラルド・ブーレ ヴァイオリンコンクール最年少入賞第2位。SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2020 第1位、グランプリ受賞。第22回 日本演奏家コンクール第1位。第24回松方ホール音楽賞、他多数受賞。8歳より岡山フィルハーモニック管弦楽団、東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、藝大フィルハーモニア管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、他数々のオーケストラと共演。現在、ヴァイオリンを野口千代光、渡辺玲子、田野倉雅秋に師事。



ドイツのボンに生まれ、ウィーンを舞台に活躍したルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）は、ハイドン、モーツァルトと並んで、「ウィーン古典派」を代表する作曲家であり、青年期から始まる聴覚の喪失という悲劇を乗り越え、古典派の枠組みを超えた数々の革新的な名作を世に送り出した巨匠である。

この曲が作曲された1806年は、ベートーヴェンの創作活動における「傑作の森（中期の黄金期）」のただ中にあり、交響曲第3番「英雄」、第5番「運命」、ピアノ協奏曲第4番など、若々しい輝きと力強さにあふれた名作が次々と生み出された、充実した時代であった。

しかし、初演時の評価は良いとは言えず、その後この作品が演奏されることはほとんどなくなる。この作品が真の傑作として広く世に認められるようになったのは、初演から約40年後のこと。1844年、当時12歳だった天才少年ヨーゼフ・ヨアヒムが、フェリックス・メンデルスゾーンの指揮でこの曲を演奏し、歴史的な大成功を収めたことが再評価の大きな契機となった。

彼の残した唯一のヴァイオリン協奏曲であるこの作品は、メンデルスゾーン、ブラームスの作品とともに「三大ヴァイオリン協奏曲」と称されている。壮大なスケール、深い精神性、そして人間的な温かさに満ちたこの曲は今なお最高峰の傑作として、時代を超えて多くの人々を魅了し続けている。

第1楽章 Allegro ma non troppo

ソナタ形式。ティンパニが静かに刻むリズムの序奏で幕を開けるこの楽章は、当時非常に斬新な始まり方であった。このモチーフは楽章を通して各所に散りばめられ重要な要素となりながら、ヴァイオリンソロはオーケストラと語り合い、輝かしく気品に満ちた旋律を歌い上げていく。穏やかな抒情性と美しさに満ちた、雄大な楽章である。

第2楽章 Larghetto

変奏曲の形式をとった、奇跡的なまでに美しい緩徐楽章。弱音器をつけた弦楽器によって心安らぐ祈りのような主題が提示される。一音一音が持つ表情や温かさが際立ち、愛情であふれている。楽章の終盤、音楽は突如として劇的なカデンツァ風のパッセージを迎え、そのまま途切れることなく第3楽章へと突入する。

第3楽章 Rondo

ロンド形式。明るく躍動感にあふれたロンド主題がヴァイオリンソロによって奏でられる。軽快な主題が何度も姿を変えながら現れ、独奏ヴァイオリンとオーケストラの生き生きとした掛け合いが展開される。喜びに満ちたエネルギーと躍動感あふれるフィナーレで、最後は華々しく圧倒的な高揚感の中で全曲を締めくくる。

最後になりましたが、本日はモーニング・コンサートにお越しくださりありがとうございます。このような機会をいただけたこと、とても嬉しく思っております。

今日は皆さまに私の大好きなベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲の魅力をたくさんお届けできるよう、心を込めて演奏します。指揮の山下一史先生、藝大フィルハーモニア管弦楽団の皆さま、この演奏会の開催にあたりご尽力いただいた皆さま、いつも温かくご指導くださる先生方、支えてくださる皆さまに、心より感謝申し上げます。

（青山 記）



©ai ueda

1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、森正の各氏に師事。1984年桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学。1986年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。1985年12月からカラヤンが亡くなる1989年まで彼のアシスタントを務めた。1986年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会で、急病のカラヤンの代役として急遽ジーンズ姿のまま「第九」を指揮し、話題となる。以来、ザルツブルク・フィングステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約。その後、ヘルシンボリ交響楽団（スウェーデン）の首席客演指揮者を務めた。日本国内では1988年にNHK交響楽団を指揮してデビュー。オーケストラ・アンサンブル金沢プリンスパル・ゲスト・コンダクター、九州交響楽団常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者、同団正指揮者を歴任。また、東京藝術大学音楽学部指揮科教授として後進の育成にも心血を注ぐ。千葉交響楽団音楽監督、愛知室内オーケストラ音楽監督、大阪交響楽団常任指揮者。大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者。

管弦楽：藝大フィルハーモニア管弦楽団 The Geidai Philharmonia Orchestra, Tokyo

藝大フィルハーモニア管弦楽団（2016年秋、「藝大フィルハーモニア」から改称）は東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラで、定期演奏会のほか、声楽科との「合唱定期」、オペラ専攻との「オペラ定期」、音楽学部の「新卒業生紹介演奏会」、年末恒例の「チャリティーコンサート メサイア」（朝日新聞厚生文化事業団・朝日新聞社主催）、「台東第九公演」などを行なっている。教育面では、器楽科・声楽科学生との協奏曲等の共演および作曲科学生の作品披露を行う「モーニング・コンサート」（年13回）や、指揮科学生との演奏会・試験・演習、東京藝大ジュニア・アカデミーの生徒との協奏曲の共演などを通して、学生の演奏経験の拡充に資している。学外での活動も積極的に行っており、近年では、新国立劇場での「世界若手オペラ歌手ガラコンサート」や現代舞踊名作劇場（現代舞踊協会）の出演をはじめ、長崎県五島市、新潟県長岡市、新潟県魚沼市、秋田県秋田市、茨城県取手市でも公演を行い、いずれも好評を博した。海外では、2017年6月のチリでの4公演（日本・チリ修好120周年記念）に続き、2023年12月には、世界三大劇場の一つであるアルゼンチンのコロソ劇場（Teatro Colón）からの招聘による公演で聴衆を魅了し、15分以上に及ぶスタンディングオベーションを受けた。また2024年12月には、ヴァイオリンの巨匠ジェラルド・プーレ氏と共に、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲のCD録音を実施した。（公社）日本オーケストラ連盟準会員。



ソロ・コンサートマスター

植村 太郎

コンサートマスター

澤 亜樹
對馬 佳祐 ◎

第1ヴァイオリン

荒井 友美
生田 絵美
加藤えりな
金子 芳子
河野由里恵
佐原 敦子
菅谷 早葉
西田 史朗
前田 奈緒
増尾 朗子
坂菰奈津美 *

第2ヴァイオリン

村津 瑠紀 ○
山本 有紗 ○
清岡 優子
小暮 莉加
小杉 結
野田 良子
福井 彩花
福崎 雄也
マヤ・フレーザー
宮本 有里

ヴィオラ

安藤 裕子 ○
吉田 篤 ○
阿部 哲
梶岡 弥生
中川玲美子
麻柄明日香
森 朱理
田口 桜子 ◆

チェロ

羽川 真介 ○
山澤 慧 ○
寺井 創
豊田 庄吾
夏秋 裕一
松本 卓以
槇岡絵里香 *
倉田 俊祐 ◆

コントラバス

赤池 光治 ○
長坂 美玖 ○
倉持 敦
小室 昌広

フルート

細川 愛梨
山本 葵
石川 雛 ◆
大場 藍 ◆

オーボエ

戸田 智子
山田 涼子

クラリネット

濱崎 由紀
春田 傑
中ヒデヒト *
栗山かなえ ◆

ファゴット

坪井 祐樹
宮崎 寿理
山崎 奏羽 ◆

ホルン

谷 ひな子 ○
岡村 陽
堂山 敦史
梁川 笑里
金 揆璃 ◆

トランペット

平山あかり
星野 朱音
金子 美保 *
蓬田奈津美 *

トロンボーン

東川 暁洋
久保田和弥
和久井梨帆 *
手島 敬人 *

テューバ

藤田 裕人 ◆

ティンパニ&パーカッション

井手上 達
ニツ木千由紀
安藤 僚 *
難波芙美加 *
村瀬 芽生 ◆

ピアノ&チェレスタ

平尾 菜奈 ◆
松原 凌太 ◆

ハープ

太田 咲耶 *

楽団長

福中 冬子

事務局長

酒井 敦

事務局次長

小宮山雄太（チーフ・ステージマネージャー）
小久保綾子（チーフ・ライブラリアン）

スタッフ

葛谷 拓摩（インスペクター）
成迫 萌桜（インスペクター補佐）
森本 直通（ステージマネージャー）
徳永 芽久（アシスタント・ステージマネージャー）
神山 巧弥（ステージスタッフ）
中村 淳（ステージスタッフ）
安田 沙織（ライブラリー）
廣田 碧（ライブラリー）
小林 世佳（ライブラリー）
山田 大（広報強化）
足立 優司（演奏活動強化）
野村 智行（庶務）
松井 勝幸（会計）◎：コンサートマスター
（本公演）
○：首席奏者
*：賛助出演
◆：本学学生発行：2026年7月23日(木) 東京藝術大学
編集：東京藝術大学音楽学部
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
お問い合わせ：東京藝術大学演奏芸術センター
TEL 050-5525-2300
※無断転載・複写・引用などを禁じます